

株主の皆さまへ

Business

Report

2009

第8期 事業報告書

2008年10月1日～2009年9月30日



株式会社ウェッジホールディングス
証券コード：2388

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より当社ウェッジホールディングスをご支援いただき誠にありがとうございます。

この度、当社としては初めて株主の皆さまに向けまして、このような報告書をお送りすることとなりました。今後はより一層ご理解いただきやすいご報告ができるよう、継続し改善を進めていく所存です。

ウェッジホールディングスは2007年、東南アジアを中核に事業展開をするアジア・パートナーシップ・ファンドグループに加わったことから、同グループから私を含む新たな経営陣が参画し、既

存のマネジメントと共に本格的な経営改革に取り組んでまいりました。

2007年9月期までの3年間に渡り、残念ながら当社はコンテンツ投資の失敗やグループ経営管理体制の整備不足から、多額の特別損失を計上し業績の低迷を見ることとなりました。そのような過去を鑑み、新たな経営体制において、私たちは第一に経営管理の強化を図りました。その上で事業の収益改善に取り組んだ結果、2008年9月期末には黒字転換を果たすことができました。

そして2009年9月期初めには、当社は新たな企業ビジョンとして、「Creative Stage Company」を発表しております。



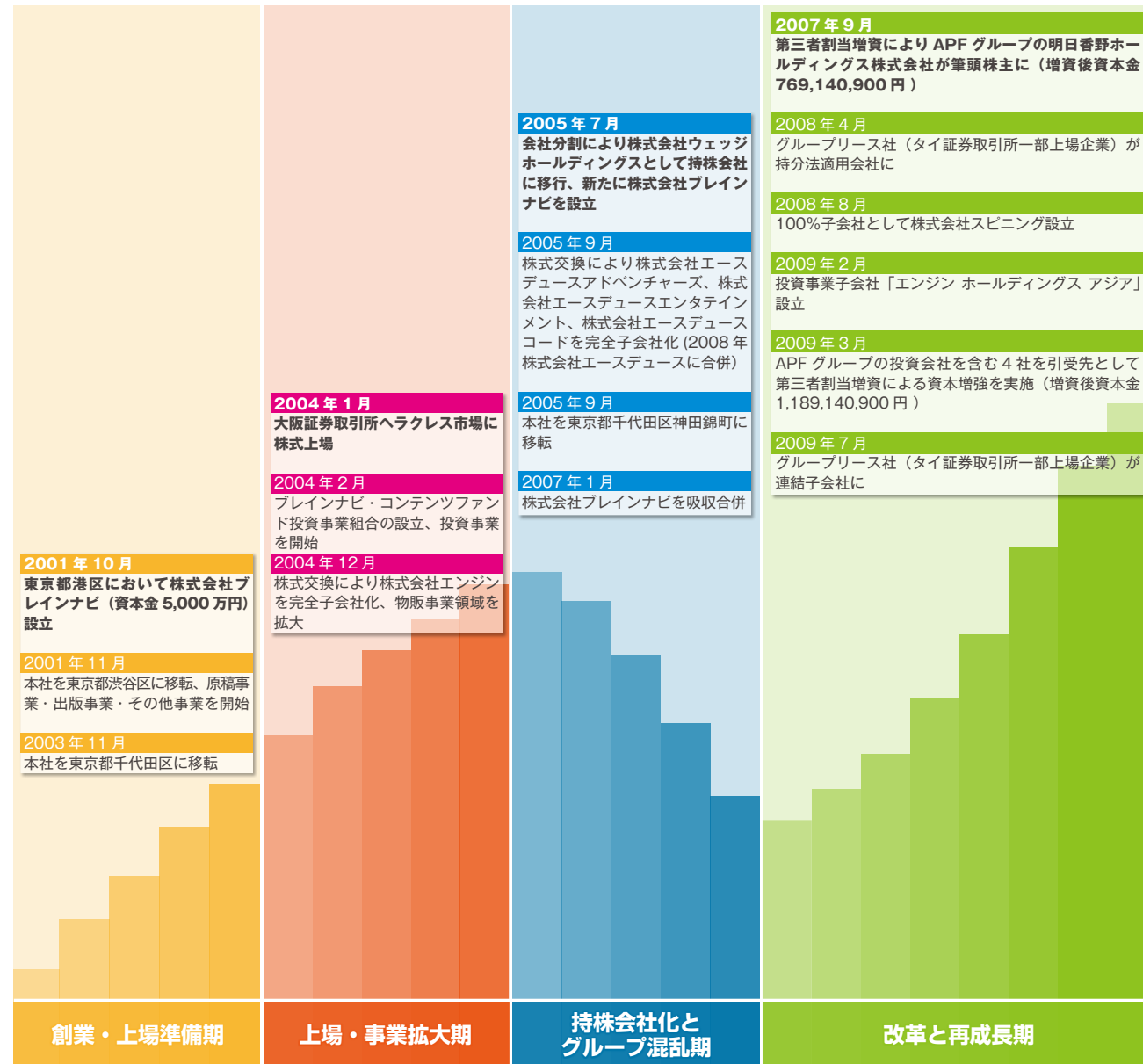
代表取締役社長 田代宗雄

手探りから始めた改革の中で気づいたこと、それは我々の事業とは多種多様な個性が活躍する「舞台」であり、大切な「場」を作ること、そのものであるということです。たとえば、創業期から今に至るまで領域を広げてきたコンテンツ事業は、まさに日本の個性あふれるクリエイターたちの華やかな活躍の場を作るためにあります。社員たちは個々の思い入れを強く持ちつつ、日々地道にクリエイターたちのサポートをしています。アイデアと面白さ、こだわりを形にする商材を扱っている物販事業においても、やはり現場の仲間たちの活動は同じです。そんな彼らが生き活きと活躍し続ける会社であり

たい。個性の強い社員たちがさらに活躍する場、ステージを作りたい。そんな思いから私たちはそれまで弱かった会社の仕組みを整え、企業としての経営力を強化することで事業の改善を進めてまいりました。同時に既存事業の弱みを補いうる新しい事業を広げ、強化した経営基盤により新しい事業を支援する事業体を目指しております。

お陰様で現在当社グループは売上高・利益共に拡大、新たな事業の増加を含めてグループの規模は拡大に転じております。今後も私たちは歩みを止めることなく、新しいステージに向けて挑戦を続けてまいります。

会社沿革



- 1 株主の皆さまへ
- 2 会社沿革
- 3 社長インタビュー
- 5 事業紹介
- 6 グループ紹介
- 7 財務諸表
- 9 Special Topics

社長インタビュー

～当社の概況について～

Q1

前期の営業状況は
いかがでしたか？

まず外部環境からいえば、この一年は、当社もやはりサブプライム問題に連なる経済危機の影響に直面することになった年だったといっておくことができます。

たとえば、DVD・音楽CDなど、パッケージ市場の縮小は顕著であり、期待する売上高に届かない作品が多発しました。米国メーカー商材を扱う物販事業でも商品の発売延期や中止が相次ぐなど、急速な環境変化が訪れることに

なりました。

こうした状況を前に、当社は厳しい選択を早くから行うことになりました。アニメーション事業・タレント事業など、いくつかの事業においては大幅な事業縮小を行うことで、今の私たちが支えうる「場」に注力することとしています。固定費削減にも踏み込み、たとえば、昨年国内に最大7か所あった事業所を、2009年11月現在には2か所までに統合しています。また、資本・財務面でも守りを固めることとし、資本増強に取り組みました。

一方で、私たちは新たな事業領域に

ついて拡張を進めています。上場からの事業であった投資事業については、新たに前々期より投資育成事業として基盤を整備した結果、当社グループの重要な収益基盤に育ちつつあり、グループの新たな事業領域を開拓する推進エンジンの役割を持ち始めました。2009年9月期第4四半期より投資育成事業セグメントから新たにファイナンス事業が独立、当社連結会計において、売上高・利益共に最大の事業セグメントとなりました。

2009年9月期はそのような改革と事業拡大の両面に取り組んだ結果、お陰様で当社グループの当期純利益は約2億円（前年比約2.5倍）と過去最高益を達成することができました。

Q2

今期の見通しおよび今後の
戦略についてお聞かせください。

2010年9月期において、当社は売上高42億円、営業利益7億2千万円、経常利益7億円、当期純利益2.5億円を見込んでいます。比較すると売上高において前年比173%、営業利益においては前年比524%となるなど、当社

にとっては飛躍的な業績拡大となりますが、これは主に2009年7月より連結子会社となった、グループリース社の業績が通年で当社業績に寄与することが最大の要因です。

グループリース社はタイ証券取引所一部に上場するファイナンス会社で、主にバンコクを中心としたオートバイリースを主要な事業としています。同社は東南アジアの金融市場・経済環境にも多くの影響を及ぼした経済危機の中でも好業績を維持し続ける優良企業です。私自身2009年春から同社の取締役役に就任し、毎月バンコクへ出張して同社の事業に携わっておりますが、東南アジアの成長を肌で実感すると共に、同社の事業に大きな可能性を感じています。

成長市場である東南アジアの高収益事業を取り込んだ当社グループにとって、この事業の成長を促進することは重要な役割の一つであり、将来の大きな成果につながるものと確信しております。ファイナンス事業のみならず東南アジアに基盤を持つアジア・パートナーシップ・ファンドグループの強みを活かし、今後も当社は東南アジア市場における成長機会の獲得に積極的に臨む方針です。

また、日本国内においては経済危機への対応を経ながらも、継続的に本部

グループリース社 会社概要

会社名：Group Lease Public Company Limited.
(グループリース社)
設立：1986年5月
資本金：280,839,450 バーツ (2009年9月末現在)
上場市場：タイ一部証券市場上場 (証券コード GL)
代表者：Samart Chiradamrong (Vice Chairman)
本社所在地：63 Soi 1 Thetsabannimitrtai Road,
Ladyao, Chatuchak, Bangkok, 10900.
THAILAND.
主要事業：タイ国内におけるオートバイリース事業
(タイ国内シェア4位)
ホームページ：<http://www.grouplease.co.th/en/index.html>
(英語)



機能の強化と事業のてこ入れを進めてきました。今後はこの本部からの経営支援機能を通じて、日本国内においても新たな事業機会の発掘に努めていきます。

投資育成事業をエンジンとした事業拡張と、本部機能による事業強化。事業の拡大と共に新しいメンバーを迎え、この12月には一部経営体制を刷新しました。これから向かう新しいステージに、より一層スピードを重視して進んでいきたいと思っております。

Q3

株主の皆さまにメッセージを
お願いします。

過去数年に渡る業績低迷と株価下落では株主の皆さまには大変ご迷惑をお

かけしてまいりました。代表者として深くお詫び申し上げます。

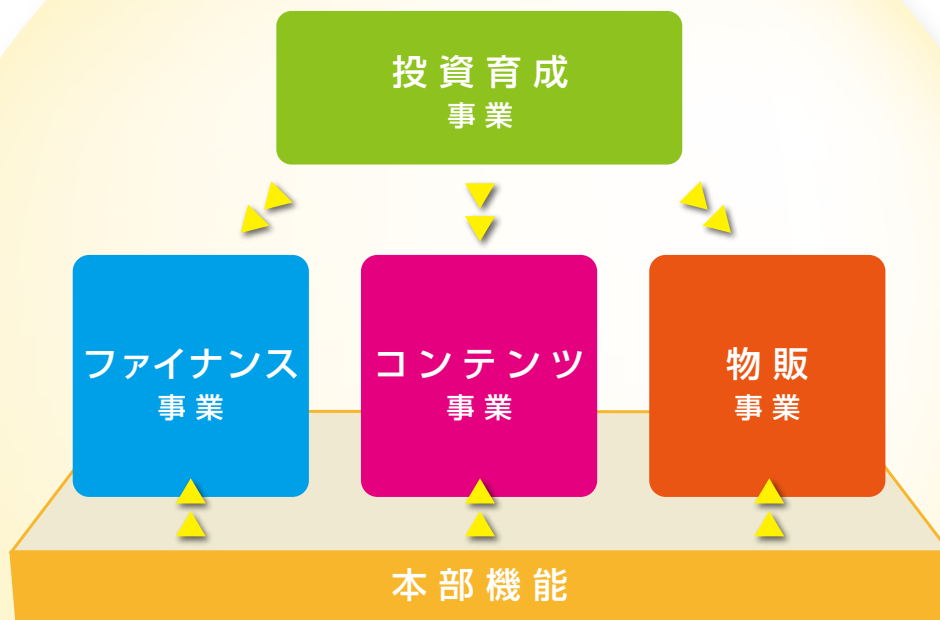
業績拡大を背景に2009年9月期においては、過去4期に渡り見合わせた普通配当を、100円の復配予定とすることができました。多くの方々のご支援の下、ここに至れたことに経営陣一同深く感謝いたしております。

ただ、今回の復配はわずかな兆しにすぎず、大きく下落した株価についても次第に上昇は見られるものの、未だ回復は果たせておりません。残す課題も多い当社グループではありますが、今後はさらなるスピードでより一層業績を拡大させることで株価・配当両面で貢献できるよう努力してまいります。今後とも当社グループにご理解、ご支援のほどをお願い申し上げます。



事業紹介

ウェッジホールディングスグループでは、「コンテンツ事業」「物販事業」「ファイナンス事業」「投資育成事業」の4領域に渡って、多彩な事業を展開しております。
今後も既存事業の強化と共に、新たな事業領域を開拓してまいります。



投資育成事業

国内外の優良投資案件への投資活動、その他の短期投資・融資事業

コンテンツ事業

カードゲーム事業：トレーディングカードゲームの企画・コンサルティング業務
出版・編集事業：編集プロダクション業務、書籍の出版
映像・映画事業：映像コンテンツの企画・製作・販売及び配給業務
音楽事業：音楽ソフトの制作・配信・販売・プロモーション業務

本部機能

グループ全体における各種事業の開発・育成・経営支援業務

ファイナンス事業

タイ国内における、オートバイのリース業務

物販事業

卸売事業：海外玩具メーカーの国内正規代理店業務
小売事業：キャラクター商品を中心とした実店舗「BLISTER」の運営
EC事業：通販サイト「BLISTER.JP」の運営
「たのみこむ」事業：商品リクエストサイト「たのみこむ」の運営。OEM事業

グループ紹介



株式会社ウェッジホールディングス
<http://www.wedge-hd.com/>

事業概要：
企画編集・出版事業
カードゲームの企画・制作及びコンサルティング事業
国内外への投資及び各種事業の開発・育成・経営支援



Group Lease Public Company Limited
<http://www.grouplease.co.th/en/>

事業概要：
タイ国内でのオートバイリース事業

ACEDEUCE inc.

株式会社エースデューズ
<http://www.acedeuce-ent.jp/>

事業概要：
映像コンテンツの企画・製作・販売及び配給
広告代理業



株式会社スピニング
<http://www.spinninginc.jp/>

事業概要：
音楽ソフトの制作、販売
プロモーション業務

ホームページ紹介 当社の詳しい情報はホームページでご覧いただけます。



<http://www.wedge-hd.com/>



ENGINE

株式会社エンジン
<http://www.engine.ne.jp/>

事業概要：
キャラクター商品を中心とした卸売・小売・EC事業
国内外への有価証券及び不動産等への投資事業



Engine Holdings Asia Pte.Ltd.
<http://www.wedge-hd.com/>

事業概要：
東南アジアを中心とした海外成長市場での投資事業



株式会社ラディクスモバニーメーション

事業概要：
アニメーション制作・配信
ライセンス管理業務

連結財務諸表

◆連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期（第8期） 平成21年9月30日現在	前期（第7期） 平成20年9月30日現在
資産の部		
流動資産	4,138,610	973,860
固定資産	3,744,033	1,548,122
有形固定資産	146,092	39,363
無形固定資産	606,729	235,287
投資その他の資産	2,991,211	1,273,472
資産合計	7,882,643	2,521,982
負債の部		
流動負債	2,561,122	857,551
固定負債	1,521,106	283,527
負債合計	4,082,228	1,141,079
純資産の部		
株主資本	2,760,784	1,516,743
資本金	1,289,140	769,140
資本剰余金	2,470,861	1,950,964
利益剰余金	△ 970,804	△ 1,174,893
自己株式	△ 28,413	△ 28,468
評価・換算差額等	△ 191,507	△ 135,840
新株予約権	31,067	—
少数株主持分	1,200,069	—
③ 純資産合計	3,800,414	1,380,903
負債純資産合計	7,882,643	2,521,982

◆経営成績のトピックス

① 新セグメント増加で、売上高は拡大へ

経済環境悪化や不採算事業の縮小を受け、既存事業の売上高は減少しましたが、新たにファイナンス事業が加わったことで、連結売上高は拡大に転じました。

② 対前年比約 250%と純利益は過去最高に

ファイナンス事業やカードゲーム事業等、高収益事業が収益拡大を牽引、投資育成事業の収益も貢献したことで、純利益は対前年比約 2.5 倍の 2 億円を超え、過去最高益を達成することができました。

③ 純資産も大幅増加、企業規模が拡大

新株発行と社債の株式転換による株主資本の増加、グループ会社の増加と利益拡大の結果として当社の連結純資産は約 2.7 倍と大幅に増加しました。

◆連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

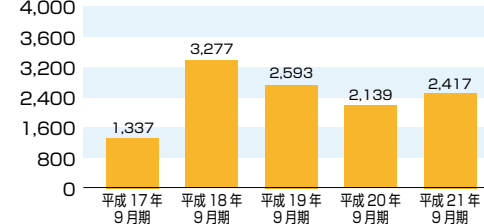
当期（第8期） 平成20年10月1日から 平成21年9月30日まで	株主資本					評価・換算差額等		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
平成20年9月30日残高	769,140	1,950,964	△ 1,174,893	△ 28,468	1,516,743	△ 135,840	△ 135,840	—	—	1,380,903
当期中変動額										
新株の発行	420,000	420,000			840,000					840,000
新株の発行 (新株予約権の行使)	100,000	100,000			200,000					200,000
当期純利益			204,089		204,089					204,089
自己株式の取得				△ 48	△ 48					△ 48
自己株式の消却		△ 103		103	—					—
株主資本以外の項目の 当期中の変動(純額)						△ 55,666	△ 55,666	31,067	1,200,069	1,175,470
当期中の変動額合計	520,000	519,896	204,089	54	1,244,041	△ 55,666	△ 55,666	31,067	1,200,069	2,419,511
平成21年9月30日残高	1,289,140	2,470,861	△ 970,804	△ 28,413	2,760,784	△ 191,507	△ 191,507	31,067	1,200,069	3,800,414

◆連結損益計算書

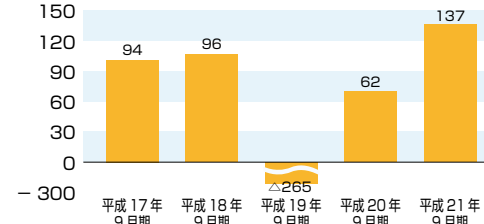
(単位：千円)

科目	当期（第8期） 平成20年10月1日から 平成21年9月30日まで	前期（第7期） 平成19年10月1日から 平成20年9月30日まで
① 売上高	2,417,459	2,139,054
売上原価	1,489,168	1,398,011
売上総利益	928,290	741,043
販売費及び一般管理費	790,928	678,721
営業利益	137,362	62,321
営業外収益	206,793	104,645
営業外費用	22,128	20,802
経常利益	322,026	146,164
特別利益	6,819	14,172
特別損失	25,664	75,061
税金等調整前当期純利益	303,182	85,274
法人税、住民税及び事業税	53,633	3,756
法人税等調整額	△ 31,369	—
少数株主利益	76,830	—
② 当期純利益	204,089	81,518

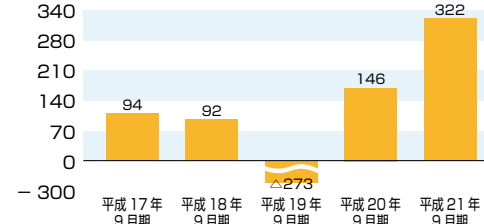
(百万円) 売上高



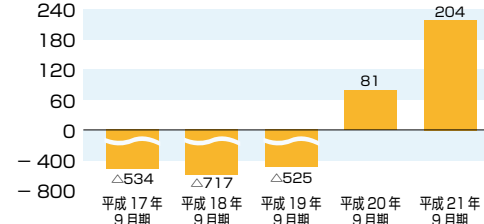
(百万円) 営業利益



(百万円) 経常利益



(百万円) 当期純利益



◆連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当期（第8期） 平成20年10月1日から 平成21年9月30日まで	前期（第7期） 平成19年10月1日から 平成20年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,773	38,030
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 965,604	△ 1,382,590
財務活動によるキャッシュ・フロー	874,942	△ 200,089
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 198	—
現金及び現金同等物の増減額(減少：△)	△ 45,088	△ 1,544,650
現金及び現金同等物の期首残高	237,847	1,782,497
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	4,760	—
現金及び現金同等物の期末残高	197,519	237,847

東南アジアへステージを広げるウェッジ・グループ ～成長市場の活気の中で～

田代 宗雄

2009年11月14日、イサーンと呼ばれるタイ東北地方の中核都市、コラート。当社の決算発表が日本で行われた翌日、私はこの地を初めて訪れました。

常夏のこの国はこれから徐々に過ごしやすくなる乾季に入り、旅行や観光に最も適することから世界中の観光客を集めるハイ・シーズンを迎えます。

今回私の渡航の目的の一つは、当社の親会社であるアジア・パートナーシップ・ファンド（APF）グループが主催するCSRイベント（社会貢献活動）に参加すること。週末にかけた3日間、APFグループはこの地域で最も古い壁画がある仏教寺院で、タイの子供に向けて絵画を通じた日本・タイの文化交流活動や、学校や寺院などへの寄付を行いました。

敬虔な仏教国であるタイにおいて、寄進（寄付）の行為は企業にとり大変重要なことであり、日系投資会社ながら現地の地域に溶け込み多くの企業を経営するAPFグループにとっては身近な活動です。その中でも今回のイベントには、APFグループのタイ国内の主要企業が参加した規模の大きなものとなったようです。2日目の夜に行われたパーティには、この地方の名士を含む総勢700人を超す参加者が集まり、



コラートでのCSRイベントの様子。

主要テレビ局をはじめ取材に訪れたマスコミは80社近くになるなど盛況を極めました。

コラートを含むイサーン地方はタイでも相対的に人口の多い地域にあたり、これから生産人口となる若い世代が多いことから、タイ社会の今後の成長を担う重要な役割を果たすといわれています。近年のアジアの新興国における急速な経済成長は、早い時期から首都バンコクを中心に着実な都市形成が進んでいたタイにおいても

同様に進み、中産階層の急速な増加と消費の拡大など、経済成長は首都から地方都市に拡大しています。

団塊ジュニア世代にあたる私にとって、バンコクで見る光景と雰囲気は、時折日本の1980年台の記憶を思いださせることがありましたが、このコラートにもまた急速に幹線道路が整備され、バンコクで有名なデパートやショッピングプラザが次々と進出し、新たなビルの建設が進んでいるなど、その当時の日本の地方都市の活況を私に想像させてくれる街でした。



近代的な高層ビルの合間にも、タイの人々の信仰と深く密着した生活を垣間見ることができる。

この一年でウェッジホールディングスグループに加わったグループリース社もまた、バンコク中心に伸ばしてきた売上を、今後は地方にも展開を広げることによって加速させる戦略をとっています。現金でオートバイを購入する資金のない顧客にリースという後払いの形で購入できるようにするグループリース社の事業は、かつての日本で多く見られた割賦販売のサービスに近い役割を果たしているようです。バイクリースは若い世代やバイクを使った運送業を営む人々に受け入れられており、農



オートバイで混み合うタイ市内の道路。オートバイは人々の生活に欠かせない交通手段だ。

村から都市への人口が移動しつつあるタイの地方においてもこれからの成長が期待されています。日本メーカーが圧倒的なシェアを有するオートバイ市場ですが、現在のタイではかつての日本のように若者は流行のバイクを数年で買い替えることも増えているようです。グループリース社は、このコラートに新しい拠点を拡張し、地元のオートバイディーラーとの提携を進めながら、これからオートバイを購入する若者を顧客に取り込むべく熱心に営業活動を行っています。

タイに出張するたびに感じますが、早い段階から日本企業が進出し、経済支援や協力なども重ねられてきたタイにおいて、人々は日本に対して概ね好意的であり、私たち日本人にとっても、信頼して楽しく仕事ができるパートナーです。今回の出張ではその他にグループリース社の取締役会など、重要な会議もこなして戻ってきましたが、共に時

間を過ごすにつれ相手のこともより理解できるようになり、有意義な時間が持っています。

この一年間でウェッジホールディングスグループは順調にタイをはじめとした東南アジアで仕事をする機会を急速に増やしてきました。今後もこのつながりを広げつつ、日本と東南アジアの発展につながる貢献を重ねていければと願っています。



会社概要

社 名：株式会社ウェッジホールディングス

事 業 内 容：コンテンツ・物販・ファイナンス事業の経営・運営

本 社 所 在 地：101-0054 東京都千代田区神田錦町一丁目1番地神田橋安田ビル4F

設 立：2001年10月31日

代 表 者：田代宗雄

資 本 金：1,289,140,900円

グループ従業員数：301名（2009年9月末現在）

株主メモ

事 業 年 度：毎年10月1日から翌年9月30日まで

定 時 株 主 総 会：毎年12月開催

株 主 確 定 基 準 日：9月30日

1 単 元 の 株 式 数：単元株制度なし

証 券 コ ー ド：2388

株主名簿管理人

特別口座の管理機関：日本証券代行株式会社

同 連 絡 先：〒137-8650

東京都江東区塩浜二丁目8番18号

日本証券代行株式会社 代理人部

電話 0120-707-843（フリーダイヤル）



株式会社ウェッジホールディングス
<http://www.wedge-hd.com/>